

■ **田村栄太郎** 民間史学者。生涯、民衆史研究に打込み、様々な切り口から権力・権威を批判する著作を刊行し続けた。

たむらえいたろう

郡司千島探検1893 = 群馬県高崎市で、車夫置屋兼履物商の長男に生まれ、

日清戦争始・1894 = 1歳：

教科書疑獄・1902 = **9歳**：

幼時より、雲助・車夫と接触、近くの柳川町の花街の女郎の暮しを見聞し、下層社会を知る。

日露戦争終・1905 = 12歳：

病気のため、高崎商業を中退、

回復後、東京に出て明治薬学校に入るも中退し、

大逆事件判決1911 = **18歳**：

明治天皇没・1912 = 19歳：この頃、帰郷して家業を継ぐ。

酒を飲まず、**貧富の差を痛感して**、「資本論」を読み、

民本主義・・1916 = 23歳：漢方薬の研究のため、台湾へ渡るが、農民の娘と結婚して帰国。**河上肇の新聞連載「貧乏物語」を愛読。**

世話好きの親分肌で、**農民運動へ身を投じ、**

大暴落・・・1920 = **27歳**：

原敬首相暗殺1921 = 28歳：

関東大震災・1923 = 30歳：**「群馬共産党事件」に連座して逮捕され、身に覚えのなかったことから、以後反骨の生き方となる。**

治安維持法・1925 = 32歳：文庫「五分の魂」、

円本時代始・1926 = 33歳：**この年刊行されたプロレタリア作家藤森成吉の出世作「磯茂左衛門」の資料提供者となり、自らも文書を探**

金融恐慌・・1927 = 34歳：**県会に立候補、さらに大山郁夫の{労農党}から衆議院に立候補するなど、政治実践にも参加、**

共産党事件・1928 = 35歳：**妻と死別すると、前橋に移って家業を捨て、さらに「文筆に生きようと、東京に出て{都新聞}に投稿、"大波小波"欄の常連となり、**

世界恐慌・・1929 = **36歳**：

海軍軍縮条約1930 = 37歳：**「日本農民一揆録」「明治初年の農民一揆」を発表後、**

満州事変・・1931 = 38歳：**「島崎藤村の「夜明け前」批判を投稿して、世に知られるようになった。**

以後、交通史や農民一揆の点から、当代一流の学者や評論家を次々と槍玉に挙げながら、

国際連盟脱退1933 = 40歳：**「一揆・雲助・博徒」、**

帝人疑獄事件1934 = 41歳：**「日本農民一揆録」「封建下の農民一揆」を刊行。さらに、情緒的な大衆歴史文芸を批判して、「忠臣蔵物語」「戦争を語る」「歴史の人物を扶る」「国定忠治の正体」等を発表。**

芥川直木賞始1935 = 42歳：**「近世日本交通史 伝馬制度と参観交代」。「歴史の真実を衝く」で時代の風潮を批判、**

二二六事件・1936 = 43歳：**「戸坂潤らの勧めで、{唯物論叢書}第一巻として「日本風俗史」を刊行、**

日中戦争始・1937 = 44歳：**「戦時体制が進んで、{歴史科学}{唯物論研究}が弾圧されると、自ら{日本風俗研究会}を設立して、個人雑誌{日本の風俗}を発刊、**

総動員+健保 1938 = **45歳**：**郷土史をイデオロギー支配から脱却させるべく、「郷土史研究の手引」を刊行、**

第二次大戦始1939 = 46歳：**知識人で指導者たるべき人間のあり方を追及して、「日柳燕石」、**

大政翼賛会・1940 = 47歳：**「{日本の風俗}は、この年まで続けた。**

日米開戦・・1941 = 48歳：**「板倉伊賀守」を刊行。ファッショ官僚を批判して、**

創価学会換拳1943 = 50歳：**「維新海軍の人々」「日本の技術者」「外人の観た明治の日本」「日本工業前史」「日本工業文化史」「日本電気技術者伝」。「渡辺華山の人と思想」を刊行。**

年金+総武装 1944 = 51歳：**「明治海軍の創始者川村純義・中牟田倉之助伝」「日本の産業指導者」「産業指導者大蔵永常」など、幅広く人間性を追及して、時代を批判。**

敗戦・・・1945 = 52歳：**「<敗戦>を迎えた後も、下層社会研究をはじめ熱情は衰えず、**

新憲法施行・1947 = **54歳**：

極東裁判決・1948 = 55歳：**「近代日本農民運動史論」。**

三大事件・・1949 = 56歳：**「やくざ」。「まず、「裏返し忠臣蔵」を刊行、**

独立回復・・1951 = 58歳：

国連加盟・・1956 = **63歳**：

インスラレーマ・1958 = 65歳：**「やくざ考」で、政府をバクチの貸元とまで批判、**

安保闘争・・1960 = 67歳：**「それまでのものを著書集とし、第1巻「世直し」を刊行、第7巻まで至るも、売れ行き不振で中断、**

また「大東京史」を企図するも構想のままに終るが、

東京リボルヴ 1964 = 71歳：**「赤穂浪士 その歴史的背景と人間性」。「やくざの生活」を刊行。**

大学紛争始・1965 = **72歳**：**前年から刊行の「江戸東京風俗地理」全4冊は評判になった。「史料から見た秀吉の正体」、**

いざなぎ景気1966 = 73歳：**「赤穂浪士」風俗史の研究は「江戸時代町人の生活」刊行へと発展。「史料から見た義経と頼朝」から、創価学会批判を含む「史料から見た日蓮」と立て続けに刊行し、**

美濃部都知事1967 = 74歳：**人物史叢書「勝麟太郎」。「遂には、桓武以前の天皇抹殺史まで書き出すが、書店に受け入れられず、**

全共闘・・・1969 = 76歳：**没した。**

没後、「史料から見た勝海舟」「江戸時代の交通 近世日本交通史」「人物・近世産業文化史」「人物・近世洋学文化史」「日本職人技術文化史」「近世の農民一揆」「人物・近世エレキテル文化史」「考証忍者物語」と続々刊行。